

埋蔵文化財発掘調査事業

①上之土地区画整理事業地内遺跡発掘調査

平成25年度の発掘調査は、藤之宮遺跡、諏訪木遺跡・上之古墳群、前中西遺跡の4遺跡3箇所において実施した。各概要については、次のとおりである。

1 藤之宮遺跡

- (1) 調査期間 平成25年5月13日～9月20日
- (2) 調査面積 計1,100㎡（1区380㎡、2区120㎡、3区600㎡）
- (3) 検出された遺構・遺物

ア 遺構

- ・ 竪穴住居跡 18軒（古墳時代前期7、古墳時代後期9、奈良・平安時代2）
- ・ 掘立柱建物跡 5棟（古墳時代後期4、奈良・平安時代1）
- ・ 溝跡 17条（古墳時代後期8、平安時代2、時期不明7）
- ・ 土坑 12基（古墳時代後期2、時期不明10）
- ・ 井戸跡 1基（古墳時代後期）
- ・ 性格不明遺構 2基（時期不明）
- ・ ピット多数

イ 遺物

- ・ 土師器、須恵器、灰釉陶器、土錘、鉄製品、砥石、管玉など、コンテナ18箱

(4) 調査概要

藤之宮遺跡の発掘調査は、過去（平成14年度）に1回実施されており、今回で2回目となる。過去の調査では、古墳時代前期から平安時代までの遺構・遺物が確認されていたが、今回の調査においてもほぼ同様の成果が得られた。ただ、西側に位置する1・2区では主に集落を区画する溝跡が、東側に位置する3区では竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認されたことから本遺跡範囲の東西については、過去の調査成果も含めその広がりを見極めることが出来たとと言える。

本遺跡は区画整理地内に所在する他の遺跡と異なり、非常に狭い範囲内に遺構が密集して分布していることが改めて確認された。今後の課題としては南北の広がりを把握することが挙げられる。



1区全景（西から）



3区全景（東から）



3区古墳時代後期の竪穴住居跡



3区奈良・平安時代の大型掘立柱建物跡

2 諏訪木遺跡・上之古墳群

- (1) 調査期間 平成25年11月5日～12月27日
- (2) 調査面積 計1,000㎡（1区500㎡、2区500㎡）
- (3) 検出された遺構・遺物

ア 遺構

- ・竪穴住居跡 1軒（古墳時代前期）
- ・掘立柱建物跡 2棟（古墳時代前期）
- ・柵列跡 2列（江戸時代）
- ・溝跡 14条（平安時代1、江戸時代11、時期不明2）
- ・土坑 11基（時期不明）
- ・井戸跡 6基（江戸時代）
- ・性格不明遺構 2基（時期不明）
- ・古墳 1基（古墳時代後期）
- ・ピット多数

イ 遺物

- ・土師器、須恵器、土錘、埴輪、板碑、かわらけ、焙烙、陶器時、木製曲物、漆器など、コンテナ3箱

(4) 調査概要

区画整理事業に伴う諏訪木遺跡及び上之古墳群の発掘調査は、過去8回実施されており、今回で9回目となる。今回の調査箇所は、平成20・23年度調査区に隣接することから確認された遺構・遺物も過去の成果とほぼ同様であったが、西側に位置する1区では、上之古墳群に属する円墳1基が新たに確認された。確認された古墳は周堀の一部のみであるが、幅が8.5mと広いことから比較的大型の円墳であったことが考えられる。

東側に位置する2区では、主に江戸時代の遺構が多数検出され、溝跡からは室町時代の板碑と台座が出土した。これらは組み合わせると近辺に鎮座していたと思われるが、江戸時代に何らかの理由により廃棄されたものと考えられる。

今回の調査箇所付近では、江戸時代の遺構・遺物が多くみられるが、当地域では江戸時代の遺構・遺物が確認された事例は皆無に近いことから貴重な成果を得ることができた。

また、地元の小学校6年生を対象に遺跡見学会を実施し、当地域の歴史について学習する場を設けられたことも貴重な成果であった。



1区全景（東から）



2区全景（西から）



1区古墳周堀



2区溝跡板碑出土状況



2区板碑台座出土状況



2区出土板碑組み合わせ状況

3 前中西遺跡

(1) 調査期間 平成26年1月28日～3月28日

(2) 調査面積 計1,180㎡（1区660㎡、2区520㎡）

(3) 検出された遺構・遺物

ア 遺構

- ・ 竪穴住居跡 20軒（古墳時代前期3、古墳時代後期17）
- ・ 溝跡 11条（弥生時代1、古墳時代後期4、平安時代3、不明3）
- ・ 土坑 9基（弥生時代2、古墳時代後期6、近世1）

- ・ 方形周溝墓 3基 (弥生時代)

- ・ ピット多数

イ 遺物

- ・ 弥生土器、土師器、須恵器など、コンテナ10箱

(4) 調査概要

区画整理事業に伴う前中西遺跡の調査は、過去16回実施されており、今回で17回目となる。今回の発掘調査は、2箇所(1・2区)実施した。

1区は、遺跡範囲ほぼ中央南に位置する。遺構確認面は、主に砂礫層であったが、砂礫層に掘り込まれた古墳時代前期及び後期の竪穴住居跡が多数検出されたことから古墳時代の集落が広がっていることが判明した。

2区は、遺跡範囲のほぼ中央北に位置する。過去に実施した今回の調査地点東側では、弥生時代の集落が確認されていたが、今回は弥生時代の方形周溝墓が3基検出されたことから墓域であることが判明した。

前中西遺跡ではこれまで、遺跡範囲中央付近の調査事例がほとんどなかったが、今回実施した調査によりその様相の一端を明らかにすることができた点で貴重な成果である。



1区全景 (東から)



1区古墳時代後期の竪穴住居跡



2区南全景 (西から)



2区弥生時代の方形周溝墓

②籠原中央第一土地区画整理事業地内遺跡発掘調査

発掘調査は、籠原裏古墳群、籠原裏遺跡の2遺跡2箇所において実施した。各概要については、次のとおりである。

- 1 所在地 新堀字諏訪前781番1・4・5・6・7、782番1・2
- 2 調査期間 平成25年8月28日～平成26年1月23日
- 3 調査面積 910㎡（A区：400㎡、B区：510㎡）
- 4 検出遺構・遺物
 - (1)A区 古墳時代後期：古墳2基、土師器、須恵器
時期不明：井戸跡1基、竪穴遺構1基、溝跡5条、土坑4基、ピット多数
遺物：土師器、須恵器など、コンテナ1箱
 - (2)B区 古墳時代後期：古墳2基
平安時代：竪穴建物跡1棟、土師器
時期不明：掘立柱建物跡7棟、竪穴遺構2基、溝跡7条、土坑10基、ピット多数
遺物：縄文土器、土師器、コンテナ1／2箱

5 調査成果

A区の調査では、7世紀末～8世紀初頭と考えられる古墳が東西に2基検出された。本調査区のすぐ北まで籠原裏古墳群の分布があり、これにより、さらに南への分布が認められたことになる。籠原裏古墳群は、区画整理事業や集合住宅建設に伴い発掘調査が行われており、既に11基確認されていることから、本調査区の2基については、第12号墳、第13号墳と呼称する。

第12号墳は、墳丘の大部分を横断する形で調査ができ、墳丘の約2／3を検出し、推定墳丘径は15m程である。墳頂部は大きく削平を受け、墳丘は中世段階と考えられる洪水層に覆われている状況であった。なお、このような古墳の検出状況は、他の古墳も同様であった。

主体部の石室は、奥壁・左側壁・前庭部左側が大きく破壊を受けていたが、石室の規模については把握することができた。その規模は、石室長3.8m（玄室：長さ2.2m、最大幅1.25m、羨道：長さ1.6m、幅0.7m）の胴張型横穴式石室であった。前提部は、羨門から続く石組みが台形に広がる平面形を採り、前提部の左半分は大きく攪乱を受けていた。その攪乱土中からは、須恵器、土師器片が出土し、その出土遺物が本古墳のものであるとすれば、7世紀末～8世紀初頭に所属すると考えられる。

周溝は、墳丘の東西に検出され、周囲を廻り、前提部では途切れ接続していたものと考えられる。また、周溝の掘り方を観察するとコーナーを意識して掘られたと考えられ、一辺4m以上の多角形墳であった可能性が考えられる。ただし、周溝の底面の深度は一定ではなく、周溝掘りの工人による差異によりコーナーが形成された可能性もあり、多角形墳については慎重に判断する必要がある。

第13号墳については、墳丘の1／4程度の検出で、石室については、羨道の左側壁の一部が検出されたに過ぎない。墳丘及び周溝埋土上面には多量の礫が検出され、当古墳は葺石が葺かれていたものと考えられる。

周溝については、墳丘西側に良好な状態で検出された。この周溝は明確なコーナーを持って掘られており、一辺5 m程（外側上場）の多角形墳であった蓋然性が高い。また、周溝は、検出面からの深さで0.8～1.0 mと深いもので、底面の状況もほぼ一定していることから多角形墳を意識しているものと考えられる。

他の遺構については、出土遺物がほとんどなく、時期の特定には至らなかった。

一方、南に隣接するB区の調査においても、7世紀末～8世紀初頭と考えられる古墳が東西に2基検出され、これによりさらに南へ古墳群の分布が広がることとなった。本調査区の2基については、第14号墳、第15号墳と呼称する。

第14号墳は、墳丘の約2/3を検出し、推定墳丘径は11 m程である。墳頂部は大きく削平を受け、さらに、主体部の石室の玄室が大きく後世の攪乱を受けていた。

石室は、玄室の奥壁・左側壁の大部分が失われており、その規模は推定で、長さ2.9 m（玄室：推定長2.0 m、推定最大幅1.1 m、羨道：長さ0.9 m、幅0.6 m）の胴張型横穴式石室であった。前提部については、明瞭に把握できなかったがハの字に開く平面形で、石組みについては検出できなかった。

周溝については、墳丘の東で検出でき、前提部を除き墳丘を廻るものと推定された。幅が検出面で1.5～2.0 mのもので、特にコーナーを設けずに掘られていると考えられ、本墳は円墳であると考えられる。

第15号墳は、墳丘のほぼ全体を検出し、その規模は7～10 mであると考えられるが、墳丘の周囲を廻っていた周溝と考えられる溝跡を、周溝と捉えられるかどうかは検討の余地があり、墳形については不明である。

主体部の石室は、胴張型横穴式石室を意識して造られた小規模なものであり、埋葬については上部からなされたと推定される。規模は、全長1.4 m（玄室：長さ1.1 m、幅0.55 m、羨道：長さ0.3 m、幅0.4 m）であった。奥壁は大振りな立石を基点に造られ、玄門も左右が立石により構築されていた。前提部については、明瞭に検出できなかったが、ハの字状の平面形と推定された。

他の遺構については、9世紀代の竪穴建物跡1棟を除いて出土遺物がほとんどなく、時期の特定には至らなかったが、夥しい数検出されたピットのうち、掘立柱建物跡と考えられるものが7棟存在した。この掘立柱建物跡のうち1棟は、周囲を掘立柱塀で囲まれる、梁行2間、桁行2間の掘立柱建物跡であり、神社等特殊な建物であることが推定された。

今回の調査では、これまで籠原裏遺跡で確認されていた平安時代の集落跡の明瞭な知見はなかったが、籠原裏古墳群の新たな広がり、多角形墳の存在や当古墳群の終焉期における古墳の様相を考える上で貴重な成果があった。



A区・第12号墳全景



A区・第12号墳石室検出状況



A区・第13号墳全景



A区・第13号墳周溝（西）完掘状況



B区・第14号墳全景（礫床面除去後）



B区・第14号墳石室検出状況



B区・第15号墳石室検出状況（玄室側から）

③在家遺跡発掘調査

- 1 調査原因 スマートタウン事業による分譲地造成工事
(住宅約75戸・集会所・道路、対象は下記のとおり)
- 2 所在地 熊谷市別府五丁目185番地
- 3 調査面積 3,933.50㎡(道路及び防火水槽箇所が対象)
※ 敷地全体面積は、18,596.5㎡
- 4 調査期間 平成25年3月18日～9月30日。(現在、整理調査実施中)
(前期調査:A・B区 3月18日～6月16日、後期調査:C・D区 6月17日～9月30日)
- 5 調査体制 調査員2名(蔵持主任、原野発掘調査員)、作業員51名
- 6 出土遺物 コンテナ(大きさ60×40×15cm)40箱
- 7 検出遺構

竪穴建物跡12棟、掘立柱建物跡(側柱式)10棟、溝跡19条、土器廃棄遺構17基、土取り土坑5基、土坑69基、井戸跡6基、用途不明遺構6基、畠跡2か所、ピット1,334基(※遺構数は、未検証要素があるため概数)

8 調査成果

8世紀半ば～9世紀代(奈良・平安時代)の遺構・遺物が主体であり、このほか中世(鎌倉～室町時代)の遺構・遺物も確認された。

遺跡の性格は、官衙(役所)関連遺跡とその周辺集落とみられる。溝により区画されたエリア(1辺100m程か)が北側に存在し、エリア内には大型の掘立柱建物跡群が確認された。これらは、区画溝の主軸方向と一致しており、配置に規則性が窺えるものである。なお、調査区域外東側において、南北方向の大溝が過去の調査で確認され、水運により幡羅郡家(幡羅郡役所)と繋がっている可能性がある。また、区画外からも掘立柱建物跡群や竪穴建物跡群を検出している。

出土遺物は、土師器・須恵器が主体であり、金属器等も検出している。特筆すべきは、墨書・朱墨された土器や、朱墨のパレットに転用された須恵器蓋等が確認され、円面硯、盤など特異な遺物を検出している。これらは識字層の存在を示している。また、官衙に特有な遺物も散見されることから、官衙関連遺跡である可能性が高く、遺跡の機能については、立地、周辺遺跡との関連性、墨書等文字資料の分析等を行って、推定できればと考えている。

本調査地点は、古代幡羅郡に属している。幡羅郡家は、熊谷市・深谷市境の西別府遺跡・幡羅遺跡で確認されているが、本遺跡の時期である8世紀後半～9世紀代は遺物量が減少する傾向が報告されている。

現段階での本遺跡の理解としては、幡羅郡家(西別府遺跡・幡羅遺跡)を補完する存在であったと考えられる。

9 その他

9月14日(土)に遺跡見学会を実施し、地元住民を中心に200名を超える見学者を数えた(地元の自治会長、勉強会、議員等を含む)。当日、埼玉よみうりの現地取材があり、9月27日(金)記事として掲載された。

主な検出遺構



A区区画溝（東西方向）



A区区画溝（南北方向）



A区第4号竪穴建物跡



A区第5号竪穴建物跡



B区掘立柱建物跡群・土坑・ピット（西から）



B区掘立柱建物跡群・土坑・ピット（東から）



B区第2号掘立柱建物跡



B区第4号掘立柱建物跡ほか



B区第5号掘立柱建物跡



B区第1号竪穴建物跡



B区区画溝 (東西方向・A区検出のものの延長箇所)



B区第2号土器廃棄遺構



B区第3号土器廃棄遺構



B区第9号土器廃棄遺構



C区第1号掘立柱建物跡検出状況（西から）



C区第4号掘立柱建物跡検出状況（南から）



C区第2・3号掘立柱建物跡検出状況（北から）



C区第2号掘立柱建物跡完掘状況（北から）



D区第5号溝跡完掘・第6号溝跡検出状況



D区第1号土取り土坑完掘状況



D区第1号竪穴建物跡遺物検出状況



D区第3号竪穴建物跡遺物検出状況